

## 経済学科 CP

### 【教育課程・教育方法】

1年次は、経済学の基礎科目を学ぶことで経済学的思考力を身につけるとともに、アカデミックな学びの基礎スキルを学修する。

2年次は、経済をミクロとマクロの視点から学び、金融・政策・国際といった経済学の応用科目を体系的に学ぶ「経済領域」、経営や起業に関わる会計・マーケティング・経営戦略などより実践面を重視した科目が揃う「経営・起業領域」、生活や公共性に関する家計から社会保障まで幅広い分野の専門知識が身につく「生活・公共領域」の3つの領域の基礎的な科目を幅広く履修する。

3年次は、上記3つの学問領域の中から学生個人の興味や関心に合った発展的な科目を履修することで学びを深めるとともに、少人数制の演習科目（ゼミ）を全員が取り、調査の実践および仲間との議論で学びをさらに深化させる。

4年次には、演習科目（ゼミ）で卒業研究に取り組み、学修を総合する。

### CP1 基礎科目

経済学の基礎科目を学ぶことで経済学的思考力を身につける。また、英語で経済の文献を講読する科目でグローバルな視野を養いながら、アカデミック・スキルを学ぶ科目で専門的な学修に必要な技能を身につける。

### CP2 経済領域

経済学の基礎にはじまり、金融・政策・国際といった応用まで、経済学の専門科目を体系的に学ぶ。基礎科目の学修で身につけた経済学的思考力をもとに現実に生じている様々な社会的・経済的課題を分析する力を養う。

### CP3 経営・起業領域

会計学・マーケティング論・経営戦略論など、経営・起業に関する知識と分析手法を身につける。自分らしいライフキャリアの実現を考える科目やフィールドでの体験学習を取り入れたより実践面を重視した科目を置く。

### CP4 生活・公共領域

生活と経済が関わる領域や社会保障、消費者政策等の領域を学修し、生活の諸問題を、生活の内部条件と外部条件の双方向からとらえ分析する力を養う。また、政治・行政に関する仕組みやあり方を学び、民主主義の視点を身につける。

### CP5 卒業研究

1、2年次で学んだことを土台として、全員が少人数制のゼミに所属し、調査の実践および仲間との議論で学びを深め、4年間の集大成である卒業論文を作成する。

**【学修成果達成のための科目】**

- DP1 学科基礎科目、学科専門科目（3領域）の主要授業科目
- DP2 学科基礎科目（情報リテラシー特論）、学科専門科目（3領域）の統計・調査に関わる科目、基礎科目（情報処理）
- DP3 学科基礎科目（アカデミックリテラシー入門）、教養特別講義
- DP4 学科専門科目（3領域）の2年次以上科目
- DP5 演習、JWU 社会連携科目
- DP6 学科専門科目（3領域）の2年次以上科目、JWU キャリア科目
- DP7 学科専門科目（3領域）の3年次以上科目、演習、卒業論文、学科基礎科目（外国書購読）、基礎科目（外国語）

経済学部経済学科（仮称）  
入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経済学部経済学科は、持続可能な社会の実現に貢献することを理念とし、経済学を基盤に、経営・起業や公共性の視点を取り入れ、さまざまな社会的・経済的課題に対し、望ましい政策を提案できる経済学的思考力を養成する学科である。専門の学びを通じて、変化する社会の中で、女性一人ひとりがしなやかにキャリアを切り拓き、多様な生き方を自らデザインできる力を育成することを目指している。

本学科が求める学生像は、以下のとおりである。

【求める学生像】

- AP1 経済学の手法を用いた社会的・経済的課題への解決策の提案に興味・関心を持つ人
- AP2 経済学だけでなく、経営・起業や生活・公共の視点にも関心を持ち、幅広く学びながら自分の学びの中心となる学問領域を見つけていこうとする探求心のある人
- AP3 幅広い視野を持ち、主体的に学ぶ姿勢を持つ人
- AP4 経済学的思考力を身につけ、多様な立場の人々の幸せや持続可能な社会の構築に貢献したいと望む人

【高等学校段階までに修得すべき学力】

- ・国語や数学、地理歴史、公民に関する一定の基礎学力
- ・英語を読み取り理解し表現する基礎力
- ・物事を論理的に把握し分析する基礎的な読解力および論理的思考力
- ・自分の意見を適切な表現で他者に伝える基礎的な表現力
- ・他者の意見に耳を傾け、目的達成のために協働して物事に取り組む力

上記の学力を身につけているかを判定する入学者選抜試験を以下の基本方針で行う。

(1) 一般選抜

一般選抜では、各入試区分で課している科目における基礎的な知識を身につけているかを、思考力および表現力も加味しながら判定する。

・一般選抜（個別選抜型）

筆記試験により、外国語（英語）に加え国語・地理歴史・数学における基礎的な知識を身につけているかを、思考力および表現力を加味しながら判定する。

・一般選抜（英語外部試験利用型）

英語外部試験を利用して英語の 4 技能をバランスよく十分に修得しているかを判定する。さらに、筆記試験により、国語に加え地理歴史または数学の基礎的な知識を身につけているかを、思考力および表現力を加味しながら判定する。

・一般選抜（大学入学共通テスト利用型（前期 3、4 科目型））

大学入学共通テストの国語、外国語に加え地理歴史・公民・数学の計 3 科目の試験によって、それぞれの科目における基礎的な知識、思考力および表現力を身につけているかを判定する。

・一般選抜（大学入学共通テスト利用型（前期 5 科目型））

大学入学共通テストの国語、外国語に加え数学、理科、地理歴史・公民のうち 1 科目の計 5 科目の試験によって、それぞれの科目における基礎的な知識、思考力および表現力を身につけているかを判定する。

・一般選抜（大学入学共通テスト利用型（後期））

大学入学共通テストの外国語に加え国語・地理歴史・公民・数学の中から選択した 2 教科 2 科目の計 3 科目の試験によって、それぞれの科目における基礎的な知識、思考力および表現力を身につけているかを判定する。

## (2) 総合型選抜

総合型選抜の第一次選考では、調査書を用いて高等学校等における取り組み状況を調査し、高校までに身につけるべき基礎的な知識と技能、主体性および協働性を総合的に判定する。また、全学科共通課題および自己推薦書を通して主体性、論理的思考力および表現力を判定する。第二次選考では、適性検査（筆記試験）にて社会問題や経済問題に関する資料を理解し、それと関連づけながら自らの意見を発信する能力があるかどうかを見る。さらに、プレゼンテーション・質疑応答ではコミュニケーション力や他者と議論する力などを審査する。以上の調査と試験を通して総合的に判定する。

## (3) 学校推薦型選抜

高等学校等学校長によって推薦された人は、高校までに身につけるべき基礎的な学力を有していると判断する。さらに、出願書類と面接試験によって、学修や研究への意欲、自分の考えを表現する力、コミュニケーション力および協働性を総合的に判定する。

・学校推薦型選抜（附属高等学校推薦）

日本女子大学附属高等学校長が推薦する人を対象に、出願書類と面接試験によって総合的に判定する。

・学校推薦型選抜（指定校制／連携校）

本学科が指定する高等学校（指定校／連携校）の学校長が推薦する人を対象に、出願書類と面接試験（口述試験）によって総合的に判定する。

・学校推薦型選抜（公募制）

高等学校等学校長が推薦する人を対象に、小論文にて論理的思考力と基礎的な表現力、口述試験にてコミュニケーション力および他者と議論する力に加え、社会的課題・経済的課題に関する基礎的な知識を審査する。以上の試験（小論文、口述試験）と出願書類によって総合的に判定する。

(4) 外国人学生

日本留学試験の日本語、総合科目の2科目の試験によって、十分な基礎学力を有しているかを判定する。出願書類および口述試験によって、学修意欲、主体性、日本語能力、コミュニケーション能力、他者と議論する力、および社会的課題や経済的課題に関して興味・関心を持ち、自らの意見を発信する能力があるかどうかを審査し総合的に判定する。

(5) 編入学・学士入学

大学・短期大学・高等専門学校を卒業した人（見込みを含む）や他大学在学中の人を対象に、社会的課題や経済的課題に関する小論文を課し、大学2年次もしくは3年次に相当する専門的な知識を有しているかを審査する。出願書類および口述試験によって、学修意欲、主体性、コミュニケーション能力、他者と議論する力、英語に関する十分な知識および社会的課題や経済的課題に関して興味・関心を持ち、自らの意見を発信する能力があるかどうかを審査し総合的に判定する。